

常設展プレミアム

《川柳王国》北海道の軌跡

2011年2月19日(土)～3月27日(日) 北海道立文学館・特別展示室

開館時間／9時30分～17時 入場は16時30分まで **休館日**／毎週月曜日(3月21日を除く)、3月22日
観覧料／常設展観覧料〔一般400円(320円)、高大生200円(150円)、中学生以下・65歳以上無料〕
* ()は10名以上の団体料金
主催／北海道立文学館・(財)北海道文学館

平成21年度に受贈した塩見一釜コレクションにもとづき、戦後北海道川柳史の軌跡をたどります。——かつて《川柳王国》と呼ばれた北海道。北の暮らしの中に生まれた、ほっと心温まる句が詠み込まれた資料の数々からは北海道の柳界の楽しい雰囲気が伝わってきます。色紙や短冊、直筆句集、各柳社の寄せ書き、記念手ぬぐい・・・バラエティにとんだ800点あまりの資料を一堂にご紹介します。



「若升集」第一集・第二集
塩見一釜・編(1962年頃)
道内の川柳作家による直筆句集

◆文芸セミナー 《川柳王国》北海道の軌跡

2011年2月27日(日) 14:00～ 当館地下1F講堂(定員80名)

要申込 2月13日からお電話(011-511-7655)でお申し込みください。

戦後北海道の川柳界の動きを語る色紙や短冊、直筆句集、各柳社の寄せ書きなどの膨大な川柳資料群「塩見一釜コレクション」。このコレクションについて、寄贈者で、札幌で川柳作家として活動されている塩見一釜氏に、北海道川柳史のお話を交えて、解説いただきます。

＝講師＝

塩見 一釜 氏 (川柳作家)

昭和8年小樽市生れ。高校教諭の傍ら、川上三太郎選《北海タイムス》柳壇に投句。清水冬眠子に師事する。作風は明朗、軽快、重厚で北海道川柳に新風を吹き込んだ。小樽川柳社同人、川柳きやり吟社社人を経て、昭和49年、北海道川柳研究会を創立。機関誌「道産子」を創刊。第1回北海道川柳年度賞受賞(昭和39)。《北海道新聞》川柳選者(昭42～平5)、全日本川柳協会常任幹事(平5～)。句集『鳳凰1』『鳳凰2』『塩見一釜(川柳作家全集)』ほか。

北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

【交通案内】地下鉄 南北線中島公園駅(出口③)または幌平橋駅(出口①)下車徒歩6分

【お問い合わせ】(財)北海道文学館 TEL.011(511)7655 <http://www.h-bungaku.or.jp/>

施設設置者・北海道教育委員会 指定管理者・(財)北海道文学館